

会 議 報 告 書

会議名	第6回(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会
日 時	平成22年3月17日(水)午後7時00分～9時10分
場 所	市役所 3階 第一委員会室
出席者	市 只木秘書政策室長、鈴木政策班長 政策班 赤羽主幹、和田副主幹、杉山策定委員 8名

1 開 会(政策班 和田副主幹) 19:00

開会及び資料の確認

2 あいさつ(会長)

3 検討事項(進行:会長)

前回までの作業の確認について(和田副主幹説明)

- ・前回から引き続き、矢板の将来像について話し合っていきたい。
- ・改めて書記を作っていたわけではないが、齋藤委員に書記をお願いしたい。

(保健医療、地域・児童・障害者・高齢者福祉、社会保障、人権)

- ・市民同士が助け合い、温かみがあり、安らぎのあるまちづくりを目指す。
- ・恵まれた自然を活かし、市民が健康で長生きできるまちを目指す。
- ・ボランティア活動を盛んにし、市民が互いに助け合えるまちにします。
- ・高齢者の方の力を生かし、子育ての手伝い、また若い人は高齢者の方のできない事を手伝いお互いの必要とする力を活かし手助けできる人間関係づくり。
- ・助け合い、生き生き過ごせるまちを目指します。
- ・地域ぐるみで安心して子どもを産み育てることができるまちを目指す。
- ・高齢者や障がい者を含めたすべての市民が、健康でのびのびと暮らせるまちを目指します。

- ・「子育ての支援」をこちらで、総合的に入れる。

(生涯学習、学校教育、市民文化、生涯スポーツ、青少年育成、男女共同、国際交流)

- ・市民が生きがいを見いだせる、楽しくいきいきとしたまちづくりを目指します。
- ・家庭教育と学校教育バランスを整え、健全な青少年の育成を目指します。
- ・どこの幼稚園でも放課後の児童の受け入れがしてもらえると共働きの親は安心して働くことができる。
- ・伝統を大切にしながらも、新しいことに取り組むまち。
- ・一人一スポーツを長く継続して取り組むまち。

- ・伝統を大切に スポーツを長く行う。
- ・生きがいのある :
- ・かな自然を活かした清潔なまちづくり。

(環境、資源循環、下水道、河川、災害対策、交通安全)

- ・ごみの不法投棄を無くし、美しいまちづくりを目指します。
- ・資源の有効利用を図り、資源循環型の地球環境にやさしいまちを目指します。
- ・豊かな自然を守り、災害対策を大切に安心して安全な生活をできるまちづくり。
- ・人と水と緑を守り、育み未来を見据えたまちづくりを目指す。
- ・みんながのびのび歩ける道路、地域で見守りみんながのびのび歩けるまちづくり。
- ・これまでもこれからも災害や犯罪のない安心・安全に暮らせるまちづくり。
- ・豊かな自然を守り、安心・安全なまちづくり。
- ・交通安全、「地域で見守り」との表現。
- ・環境都市宣言から引用し入れる。

(住宅、道路、公園、上水道)

- ・地元材を利用した長期優良住宅を推進し、環境にやさしいまちづくりを目指します。
- ・計画的に効率的な道路整備を行い、みんなが住みよいまちを目指します。
- ・水源となる森林を守り、安心して飲める上水道の整ったまちを目指します。
- ・自然と調和した公園整備を行い、市民の憩いの場を増やします。
- ・豊かな老後を生活環境の整ったまちで暮らしていくまちづくり。
- ・誰もが一息つける憩いの場を創造します。
- ・「計画的な土地利用を行い」をどこかに入れる。
- ・第2の人生をリターンできる。
- ・森林の価値を活かす。
- ・市民生活と道路をリンクさせる。

(商業、サービス業、工業、農林業、観光、雇用環境)

- ・間伐を中心とした森林整備を進め、間伐材を有効利用し、二酸化炭素削減に取り組むまちづくりを目指します。
- ・農業・林業・観光が一体となった魅力あるまちづくりを目指します。
- ・環境産業に力を入れ、環境産業での雇用を増やし、環境にやさしいまちづくりを目指します。
- ・近隣の市町から楽しみながら買い物に来るような、商業・サービス業の盛んなまちづくりをめざします。
- ・バイオスタウンを目指したまちづくりをします。
- ・アクセスの良いところを利用し、都会から若者が立ち寄れる場所を提供できるまちづくり。例えば、映画やテレビのロケ地をアピールする。
- ・自然、自給エネルギー 「地産、地食」

- ・農商工連携 6次産業
- ・アクセスの良さを活かし 「ロケ地アピール」
- ・利便性を活かし 人集め 物流拠点

以上の意見を元に、提言書の案を再度事務局で作成する。次回提言書の内容を整理することとする。

人口フレームの設定について

(委員) 現計画は前計画の目標値を引き下げた。現計画策定時点から、人口は横ばいから減少傾向が続いており、将来目標人口をさらに下方へ設定することもあり得るが、最近のシャープ矢板工場の機能増強や、片岡地区市街地整備着手によるつつじヶ丘などの需要増、さらには本田(株)技研のさくら市進出計画などを勘案すると、5万人へ戻すというのは非現実的であるが、都市マスタープランによる定住基盤の推進などにより、増加する要因もあるのではないか。

将来都市構造について

(委員) 基本的に都市マスタープランに即した計画的なまちづくりを引き続き進める。しかし、コンパクトシティーの概念はどこかで触れていかなければならない。

(委員) 片岡駅の東西自由通路をはじめとする市街地整備に着手する。在来線の利便性についても、湘南新宿ラインによる新都心(新宿方面)や横浜までのアクセス向上、グリーン車の設定、時間短縮など向上が図られてきている。国会移転が事実上進展しない中で、新幹線の具現化は非現実的であるのではないか。

(委員) 新幹線については夢の部分であり、設置を目指さないことは寂しい気がする。一方、市民目線で見たとときに、未だにそのようなものを目指しているのかと思われるのではないか。

(委員) 新幹線を実施しない場合、それに変わる新たな重要施策を目指す必要があるのではないか。

今後の進め方

これまでの意見を集約した中間提言書を次回まとめる。

提言書を元に、新年度から庁内にて計画書の案を策定する。新年度以降も案を検討すると共に、並行して基本計画(具体的施策)の部分について、今後検討していく。

次回は4月22日に開催する。

会長 〆の挨拶

8 閉会 21:10